

# ズバリ解答

カイゼン

「改善の方程式」とは  
どのようなものか



「このように考える」と、「改善できる」という手順や方法

一般的に、方程式とは、このようにすれば、「誰でも簡単にできる」という「手順や方法」を示すもの。

ゆえに、

「改善が苦手」

「どうすれば、改善できるのか」

「どこから手をつければいいのか」

——と悩んでいる人には、最も簡単で、最も効果的なノウハウとして「改善の方程式」が勧められる。

それは

①「改善＝問題の裏返し」

②「対策＝原因の裏返し」

——という「改善の構造」を基にした「改善の思考手順」である。

つまり、困っているのなら、それを裏返して、「困らナイ化」するのが改善である。では、「困らナイ化」するには、どうすればいいのか。

その対策は、「困っている原因」を裏返すこと。たとえば、「間違い」が多くて、困っているなら、「間違えナイ化」するのが改善だ。

では、「間違えナイ化」するには、どうすればいいのか。その対策は「間違える原因」を裏返すことだ。たとえば、「似ている」のが「間違いの原因」ならば、その対策は「似ナイ化」である。

では、「似ナイ化する」には、どうすればいいのか。それには次のような

「改善の定石」が勧められる

\*「色分け化・目印化・目立つ化」

\*「表示化・テープ化・テプラ化」

\*「仕切り化・仕分け化・分離化」

\*「カバー化・ガード化・ガイド化」

——など。

このように「似ナイ化の方法」が「アタマの引出し」に、数多くあれば、次から次にアイデアが出てくる。

よって、「間違えナイ化の改善」に「行き詰まる」こともない。それが「改善力・改善指導力」である。

## 改善の方程式

### 改善の思考手順

改善とは何か。それは

#### ① 問題の裏返し

#### ② 原因の裏返し

対策＝原因の裏返し

**困ったら、困らナイ化**するのが改善。  
では、「困らナイ化」するには、どうすべきか。  
「困っている原因」を裏返すべし。

「間違い」で、困っているなら、  
「間違えナイ化」するのが改善。では、  
「間違えナイ化」するには、どうすべきか、  
「間違える原因」を裏返すべし。

「似ている」のが、「間違いの原因」なら、  
その対策は「似ナイ化」である。では、  
「似ナイ化する」には、どうすればいいか、

それには、次のような**改善の定石**を活用すべし。

- ・色分け化・目印化・目立つ化
- ・表示化・テープ化・テプラ化
- ・ラベル化・シール化・カバー化
- ・仕切り化・仕分け化・区切り化
- ・分別化・分離化・隔離化--など

# ズバリ解答

カイゼン

「改善の定石」とは  
どのようなものか



「こうすれば改善できる」という「○○化」や「○○活用」など「具体的な方法」の典型的パターン

「似る」のが「間違いの原因」なら、「間違いを防ぐ対策」は「似ナイ化」である。なぜなら、「対策」とは「原因の裏返し」だからである。

では、「似ナイ化する」には、どうすればいいか。それには次のような方法がある。

- \*「色分け化・目印化・目立つ化」
- \*「表示化・テープ化・テプラ化」
- \*「仕切り化・仕分け化・分離化」
- \*「カバー化・ガード化・ガイド化」
- など。

これらのうち、とりあえず、実施できることを実施すれば、「似ナイ化」となるので、「間違えナイ化」や「間違えニク化」などの改善ができる。

あるいは、「パソコンの機能」を活用して、「間違った数字」など入力できないように、つまり、「間違えられない化」という改善もある。

また、「誤った動作」をすると、プザーやベルが鳴ったり、パトライトが点滅するなどイロイロな「補助具」を活用すれば、たとえ、間違っても、「スグ検知→スグ修正できる」という改善も可能だ。

☆

このように「××するには」→「○○すればいい」という「具体的な方法」のパターンを「改善の定石」という。

- ①「何か変える」を意味する「○○化」
- ②「何かの活用」を意味する「○○活用」

の2種類がある。

改善とは「問題の原因を裏返すこと」だが、それには、要するに

- ①「何かを変える」
- ②「何かを活用する」

だけに過ぎない。

これ以外に「改善の方法」はない。よって「改善の定石」も「○○化」と「○○活用」の2種類しかない。

## 改善の定石

具体的な改善方法

こうすれば改善できる

××するには

○○すればいい

という具体的方法パターン

○○化＝何かを変える

色分け化・目印化・目立つ化  
仕切り化・仕分け化・分離化

カバー化・ガード化・ガイド化  
表示化・テープ化・テプラ化

○○活用＝何かを活用する

機能活用・補助具活用

制度活用・サービス活用

他人の知恵活用

# ズバリ解答

カイゼン

「改善の公式」とは  
どのようなものか



「典型的な問題」に対する  
「パターン化された解決法」

「すべての仕事」には共通の「典型的な問題・ムダ・不都合」がある。

たとえば、

- \*「イチイチ、測っている」
- \*「そのつど、計算している」
- \*「ワザワザ、移動させている」
- あるいは、
- \*「転記ミス」がある
- \*「入力モレ」がある

また、

- \*「補助者」が不在でできない
- \*「支持」のため腕が痛くなる

しかし、これらの問題には、すでに、いくつかの「効果的な解決法」が見出され、パターン化されている。

たとえば、計器で「正常か異常」が判断できれば充分という場合がある。

そのような場合、「色分け化・目印化」すれば、ワザワザ数値を読まな

くても、一目で、判定できる。それが「計測するな、判定せよ」という公式である。

事務において、「転記作業」ほど、ムダなことはない。「余計な手間」がかかるだけでなく、「転記ミス」も発生する。

その場合、パソコンの機能を活用し、すでにあるデータを転化転用するのが、「転記するな、転用せよ」という公式だ。

道具など床や作業台に置くと、積み重なり、取り出すのに苦勞する。その場合、「置くな↓吊せ」という公式が「余計な手間」を省く「改善的・整理整頓法」である。

☆

誰かに、手伝ってもらわなければ、できない仕事がある。その場合でも、「補助具」を活用すれば、「一人でも、できる化」となる。

それが「補助者は、補助具で代替化せよ」という公式だ。

## 改善の公式

問題→解決のパターン

計測調整のムダ→判定設定化

計測するな→判定せよ

調整するな→設定せよ

計測&調整するな→ゲージ化せよ

転記&入力のムダ→機能活用

転記するな→転用せよ

入力するな→選択化せよ

計算するな→自動化せよ

改善的手抜き整理法

置くな→立てる・吊せ

後始末するな→前始末化せよ

補助具によるラクちゃん化

補助者は補助具で代替化

支持・保持は支持具・保持具で手抜き

# ズバリ解答

カイゼン

「問題に気づかない人」  
「問題意識のない人」に、  
どのように指導すればいいか。



「問題」という「抽象的な用語」を使うと「カラ回り」する。「具体的な日常的な言葉」で説明すべし。

☆

「抽象的な用語」は、各人にとって、それぞれ異なるイメージや意味を持っている。そのため、話が食い違い、「カラ回り」する。

たとえば、「会社にとっての問題」か、あるいは「社員にとっての問題」なのか、それによって「問題の意味」も異なっている。

「改善活動の目的」が「会社にとってのメリット」を求めるものならば、この場合の問題とは

- ①「効率・能率」
- ②「売上・コスト」
- ③「収益・収益率」

——などだろう。

もちろん、これらは「取引先への支払い」や「社員への給与支払い」など、常にカネに追われてる「経営者

や経営幹部」にとっては最大の関心事であり、「重要な問題」だろう。

だが、一般社員にとって、それらはたいした問題ではない。多くの社員は「毎月の給与」さえあれば、「会社の収支状況」や「財務状態」などにそれほど関心はない。

それらが「重大な関心事」問題」となるのは毎月の給与が滞り、解雇や倒産など、「自分の生活」に影響する時である。

「改善活動の目的」が「社員にとってのメリット」を求めるものならば、「社員にとっての問題」とは

- ①「やりニクイ」
- ②「イライラする」
- ③「メンドウくさい」
- ④「不便・不快・不安全」
- ⑤「困ったこと・イヤなこと」

——などだろう。

仕事の中で、実際に感じていることなら、「改善すべきこと」「自分にとっての問題」として実感できる。

問題に気づかない人 に

問題に気づかせる には

その人が改善すべきこと、つまり、  
その人にとっての

## 問題とは何か？

① やりニクイ

② イライラする

③ メンドウくさい

④ 不便・不快・不安全

⑤ 困ったこと・イヤなこと

——など、仕事のなかで実際に「感じている」ことが、  
「その人にとって改善すべきこと」、すなわち、  
「その人にとっての問題」である。

「会社にとっての問題」を訴えても、  
「自分の問題」としては感じられない。だが、  
「自分にとっての問題」なら実感できる。

# ズバリ解答

カイゼン

「改善を書き出す」のが「苦手な人」への指導法は？



「問題欄・だけ」を書き出して  
おく「改善的・分割記入法」が  
勧められる

☆

「改善そのもの」はやっているが、「改善用紙」に記入しない社員には「どのように指導すればいいか」という相談がある。

その「最も効果的な対策」は「改善的・分割記入」である。それは「とりあえず、問題欄」だけを、先に記入しておくという方法だ。

「改善」を書き出すという「改善の顕在化」が苦手な人は、締切直前に、一挙に書くこととしている。

そのため、なかなか書き出せない。また、「書くべき内容」を思い出せないで、書くのが苦痛となる。

しかし、「改善用紙」は「一挙に書かなければならない」というキマリはドコにもない。

「手っとり早い顕在化」の原則は①とりあえず、「書けること」を書く

②とりあえず、「書ける欄」から書く  
——である。

では、とりあえず、何が書けるか。それは「問題欄」である。これなら、誰でも、いくらでも書けるだろう。たとえば、

- \*「やりニクイ」
- \*「わかりニクイ」
- \*「汚い・汚れる」
- \*「危ない・危険」
- \*「迷う・間違える」
- \*「イライラ・バタバタ」

——など、「困ったこと・嫌なこと」なら、いくらでも書けるだろう。もちろん、「対策欄・効果欄」など「実施・後」でなければ書けない。それらは「後回し」でいい。

とりあえず、月初に「問題欄だけ」を書き出しておく。そして、月末に見直してみる。

すると、いくつか改善済に気づく。すでに、「問題欄」は記入済みゆえ、「対策&効果欄」を書くだけでいい。

## 改善用紙の改善的

# 分割記入

全部を一挙に書くのではなく

## 書ける欄

を

## 書ける時に書く

「改善前 = 問題欄」なら、今、スグ、書き出せる

# ズバリ解答

カイゼン & A

「改善用紙」による  
「改善的・定期点検」とは

- ① 月初に、「問題欄」の書き出す
- ② 月末に、それらを見直す
- ③ 実施済「残りの欄」を記入する

☆

変化の激しい時代では、  
◎「仕事のやり方を見直しを！」  
◎「仕事のやり方の点検を！」  
——などといった「呼び掛け」がなされてきている。  
だが、それらは「呼び掛けっ放し」、または、「見直しっ放し」になっていないだろうか。  
本気で、「仕事のやり方」を見直し、変えていくには、「言いつ放し・やりっ放し」ではなく、  
①「毎月・定期的な見直し」  
②「とりあえず、問題欄を書き出す」  
——という「定期化・記録化」が不可欠である。  
ただし、「余計な手間」がかかるのはダメ。なぜなら「手間のかかること」は続かないからだ。

最初は、張り切ってやっていたても、忙しくなると、後回しになってしまい、やがて立ち消えとなる。

そこで、手つとり早い「定期点検の道具」として勧められるのが、「改善用紙・改善メモ用紙」である。

- \*「困ったこと」
  - \*「イヤなこと」
  - \*「迷う↓間違える」
  - \*「モレる↓モメる」
  - \*「手間取る↓遅れる」
  - \*「イライラ・バタバタ」
  - \*「やりニクイ・できナイ」
  - \*「わかりニクイ・わからナイ」
  - などを「問題欄」に記入できる。
- 月末に見直して、改善済みのものは「改善欄」と「効果欄」を埋めるだけ。それが、そのまま「仕事のやり方」の「定期的点検↓記録化」となっている。「具体的な内容」を記入するので、「社内評論家」が書きそうな「抽象的な文書・論文」も排除できる。

## 仕事のやり方の改善的 定期点検

- ① 月初に問題欄だけ10枚、書き出す
- ② 月末に見直す。実施済のものは残りの改善&効果欄を記入

改善報告書	
改善前 こんな問題がある	改善後
効果	

問題点は記入済み

「問題欄」は記入済みなので、残りの「改善欄&効果欄」は簡単に書ける

# ズバリ解答

カイゼン

「自分の仕事にムダはない」  
「自分はムダなことはしていない」  
——と言い張る人が  
いるのですが。

具体的な「3つのムダ」を示すべし。  
「3つのムダ」は誰もがやっている。このムダからの「手抜き」が改善だ。

☆

「無用の用」という不思議な言葉がある。一見、無用に見えても、それはけっして、ムダではなく、無用ゆえに重要な役割がある——などの解説がなされている。

また、「人生には、ムダなものはない。たとえ一時的には、ムダに思っても、そのうち必ず、役に立つものである」という「アリガタイ教え」もある。

だが、「日常的な改善」において、「手抜きすべきムダ」は、そのような「高尚なもの」でも「哲学的なもの」でもない。

どのような仕事にも、簡単・単純で、誰にでもわかる「3つのムダ」がある。それは

- ①「さがすムダ」
- ②「間違えるムダ」
- ③「イチイチ・そのつどのムダ」——である。

これらは「どのような仕事」にも、また「どの職場」にも、共通している「典型的なムダ」である。

これらのムダを少しでも「やめる減らす」ことができれば、イライラやバタバタを解消できる。

実際のところ、いつも「忙しい・忙しい」と言っている人ほど、これらの「3つのムダ」を、じっくり、たっぷりやっている。

たしかに、毎日のように、これらの「3つムダ」をやっていたら忙しくてたまらないだろう。

そのようなムダから「手を抜く」のが改善、すなわち「改善の手抜き」あるいは「手抜き改善」である。

では、ムダから手抜きするには、どうすればよいのか。次号より、順次、説明する。

## 全業種全職種全階層に 共通の3つのムダ

どんな仕事にも、共通のムダがある。「忙しい」と言っている人は「3つのムダ」を毎日のように繰り返している。これほどのムダをやっていると、忙しくなるだろう。そのようなムダから「手抜きする」のが「改善的・手抜き」

### さがす

- ①探さナイ化、せめて探し易化すべし
- ②アチコチ→定置化（置く場所を定めるべし）
- ③元に戻る化、せめて戻し易化すべし

### 迷う→間違える

- ①迷うと間違える→訂正しなければならない。
- ②迷わナイ化→間違えナイ化すべし
- ③似ナイ化=区別&分別化・目立つ化

### イチイチ・そのつど・ワザワザ

- ①同じことの繰り返し=反復のムダ
- ②あらかじめ（前もって・事前対応・先手対応）
- ③後始末（手間かかる）→前始末化すべし

# ズバリ解答

カイゼン

「さがすムダ」への  
「改善的な対策法」は？



どの会社でも、どの職場にも共通しているムダがある。それは「さがす」ということ。

「何」をさがしているか、それは「仕事」によって異なっている。

たとえば、工場では「部品、材料、工具、治具」など。また、事務所では書類やファイルをさがしている。

しかし、「さがす」という問題は、どの業種・職種にも共通している。「問題」が共通なら、「対策」も共通している。

☆

「さがす」という問題への最善策は「さがすナイ化」だ。さがさなくても必要な物や情報が即座に得られるのがベストだ。

もっとも、いつも「さがすナイ化」できるとはかぎらない。だが、せめて、「さがしやす化」ならできるだろう。

では、「さがすナイ化」や「さがしやす化」するには、どうすればいいか。それは「さがす原因」をひっきり

返すこと。「対策」とは「原因の裏返し」だから。

☆

「さがす」の最大の原因は「アチコチに置いてある」から。ならば、その「対応策」はアチコチの逆、「定置化」置く場所を定める」である。

常に「定・位置」にあれば、サッと取り出せるので、スグ仕事に取りかかれる。

しかし、「置く場所」を定めても、それが守られるとは限らない。使った物を「元に戻さない人」もいる。

また、最初は「定置化」していても、忙しくなると、「使いつ放し」となり、「定置化」は崩れてしまう。

だが、「本当の改善」は、そこから始まる。たとえ、

\*「忙しくても」↓「定置化」

\*「ズボラでも」↓「元に戻せる」

——ように「戻し易化」や「スグ戻せる化」など、さらに、もっと工夫するのが「真の改善」である。

## さがす

### ムダへの対処法

さがすナイ化するには

さがしやす化するには

## さがす原因 を

### ひっくり返す

さがす原因 は？

## アチコチ置いている

ならば対策は

## 定置化

定置化=置く場所・位置を定める



# 似ていると 間違える

ならば、

間違えナイ化には  
似ない化すべし

似ている要素を変える

- 色 が似ている → 色 を変える
- 形 が似ている → 形 を変える
- 材質 が似ている → 材質 を変える

あるいは、

強調化 → 目立つ化

区別化 → 仕切り化

差別化 → 目印化

# ズバリ解答

第30回

Q カイゼン & A

「似ている」から「間違える」への対処法

「似ている」のが「原因」なら、その対策は「似ナイ化」である。  
☆

「間違いない」の「最大の原因」は「似ている」こと。とにかく、「似ている」と間違えよう。

たとえば、「似ている人」だと間違えて、声をかけて、恥をかく。また、「似たようなスイッチ」だから、間違えて、押してしまう。

「似ている部品」だと、間違えて、取り付けてしまう。「似ている名前」だから、間違えて記入する。

「似ている数値」だと間違えて計算してまう。「似ている書類」だから、間違えて処理する。

それゆえに、「似ナイ化」すれば、「間違えナイ化・ニク化」ができる。

☆

それでは、「似ナイ化」するには、どうすればいいか。それは「似ている要素」を変えることだ。  
たとえば、

- \* 同じような「色」なら、色を変える。
- \* 同じような「形」なら、形を変える。
- \* 同じような「質」なら、質を変える。
- もっとも、「形状」や「材質」など簡単に換えられないものもある。だが、その場合でも、「表示を変える」という「代替手段」なら可能だろう。
- あるいは、
  - \* 「強調化」↓「目立つ化」
  - \* 「区別化」↓「仕切り化」
  - \* 「差別化」↓「目印化」
- などで「差別化・区別化」すれば、「似ナイ化」↓「間違えナイ化」ができる。
- たとえば、「同じような色・形」のスイッチだと、混乱したり錯覚などで「押し間違い」が頻発する。
- しかし、色や形を
  - \* 「赤」↑「緑」
  - \* 「×」↑「○」
- など「似ない化表示」をすれば、「間違えナイ化・ニク化」ができる。

# ズバリ解答

カイゼン

「間違える」という  
問題への「対処法」は？



「間違いの原因」を  
取り除くべし

☆  
仕事において、最も困るのに、最も  
頻発しているのは「間違い」である。

\*「手順の間違い」

\*「納期の間違い」

\*「納品先の間違い」

\*「部品や材料の間違い」

など。

それらが間違っただけのまま進行する  
と、不良や事故、また誤送・誤動作  
など、トンデモないことになる。

たとえ途中で間違いに気づいても、  
「手直し」などに膨大な手間がかかり、  
現場は混乱する。

そのため、どの会社でも、

\*「間違えるな」

\*「気をつける・注意せよ」

——と「呼び掛け」がされている。

だが、いくら気をつけ、注意して  
も、「間違える要素・原因」があるか  
ぎり、また、間違いは発生する。

つまり、「間違え易い状況」を放置  
したままで「間違えるな」と言うのは  
ムリというもの。

しかも、人間の「感覚や頭脳」は

①「錯視・錯覚」

②「思い違い」

③「思い込み」

——など「間違える誘因」を内蔵し  
ている。ゆえに、「内・外の両面」か  
ら「間違いの原因・要因」を除去し  
なければ、間違いは防止できない。

☆

それでは「間違いの原因」は何だ  
ろうか。もちろん、それぞれの仕事  
において、様々な原因がある。

だが、どの仕事にも、どの職場に  
も、共通している「間違いの原因」が  
ある。それは次の3点だろう。

①「似ている」

②「紛らわしい→迷う」

③「複雑・煩雑・乱雑・混雑」

次号より、これら「間違いの原因」の  
「除去・方法」を解説する。

# 間違いへの 改善的対処法

間違えるな 気をつける

注意せよでは 間違いは防げない

間違える要因・原因 があるかぎり

間違え易い状況 では 間違い発生



間違いの原因

- ① 似ている
- ② 紛らわしい→迷う
- ③ 複雑・煩雑・乱雑・混雑

対策 = 原因の裏返し

- ① 似ナイ化 = 区別化・分別化
- ② 迷わナイ化・迷わせナイ化
- ③ 単純化・簡素化・スッキリ化

# ズバリ解答

カイゼン

「複雑・煩雑」だから  
「間違える」への改善的対処法



「スッキリ化」すべし

☆

仕事の中に「混・乱・雑・複」など、「4つの文字」が出てきたら、改善のチャンスである。

つまり、

- ① 混乱・混雑・混在・混入・混同
- ② 乱雑・乱暴・乱造・乱発・乱用
- ③ 雑然・煩雑・粗雑・錯雑
- ④ 複雑・重複

わかり易く言えば、

☆「ゴチャ・ゴチャ」

☆「ぐちゃ・ぐちゃ」

——といった状況である。

それは、まるで、

\*「ミス・間違い・取り違い」

\*「つまずき・ひっかかり」

\*「トラブル・いざこざ」

\*「災害・事故・ケガ」

——などの「地雷原」で仕事をして  
いるようなもの。

安全で、間違いなく、快適に仕事  
をするには「地雷」を撤去すべき。

では、地雷を取り除くには、何を  
すべきか。それは「混・乱・雑・複」  
の反対、すなわち、

- ◎「簡素化・簡潔化・簡略化」
- ◎「整然化・整列化・整合化」
- ◎「シンプル化・スムーズ化」

——すればいい。

わかり易く言えば「スッキリ化」。

一般的には「整理・整頓」と言われ  
ている。それは「分別化・区別化」  
「分ける」ということだ。

すなわち、

- 「整理」＝「必要と不要を分ける」
- 「整頓」＝「常用と不常用を分ける」

——ことである。

なぜなら、「混・乱・雑・複」＝

「ゴチャゴチャ・ぐちゃぐちゃ」とは、

それらが分別されず、「一緒くた」に

なっている状態だから。

それらを「分けて・みる」だけで、  
「わかり易化」↓「やり易化」となる。

まさに、「分ければわかる。分ければ  
できる」と言われる如し。

# 混 乱 雑 複

は改善のチャンス

混乱	混雑	混在	混入	混同
乱雑	乱暴	乱造	乱発	乱用

雑然	煩雑	粗雑	錯雑
----	----	----	----

複雑	重複
----	----

ゴチャゴチャ  
ぐちゃぐちゃは

## スッキリ化

すべし

簡素化・簡潔化・簡略化

整然化・整列化・整合化

シンプル化・スムーズ化

スッキリ化するには

## 区別化・分別化

すべし

日常業務における

# イチイチ・そのつど

……という煩わしい問題には

# あらかじめ

予知・予測・予想・予見

前もって、

**事前 対応 先手 対応**

**イチイチ** 調べていた

**そのつど** 問い合わせをしていた

——などは、「改善のチャンス」。それらは「同じこと」の「繰り返し・反復・重複」を意味している

日常業務の **8割** は **2割** の

**定型的要素** の **反復・繰り返し** で成り立っている。

ゆえに、それら

**2割** の **定型的要素** を、**あらかじめ**

**定型化・パターン化** しておけば、**8割** の

**イチイチ・そのつどのムダ** を省ける。

# ズバリ 解答

カイゼン

「イチイチ・そのつど」  
—— という問題への対処法は



「あらかじめ・先手対応」で「繰り返し」のムダを省く。

☆

我々の仕事には「イチイチ・そのつど」という言葉が頻繁に出てくる。

たとえば、

\*「イチイチ、調べていた」

\*「そのつど、計算していた」

\*「そのつど、問い合わせしていた」

——など。

これらは「改善のチャンス」である。ナゼなら、それらは同じようなことの「繰り返し・重複・反復」だから。

そのような

「繰り返しのムダ」

「重複・反復のムダ」

を「ヤメる・減らす」のが改善。では、「イチイチ・そのつど」には

どう対処すべきか。そこで威力を発揮するのが「あらかじめ」という「改善の定石」である。

どうせ、やらなければならぬこ

とならば、「あらかじめ・前もって」で「事前対応・先手対応」ができる。ナニゴトも「後手」に回ると、ゴテゴテする。だが、「先手対応」すれば、やり易くなる。

「同じ計算」をイチイチ、そのつど、繰り返ししているのなら、あらかじめ、「早見表」を作成しておけばいい。

日常業務の「8割」は「2割」の「定型的要素」の「繰り返し」である。ゆえに、それらを前もって「定型化・パターン化」しておけば、8割のムダを省ける。

☆

「あらかじめ」の漢字は「予め」。「予」という漢字は「予知・予測・予想・予備・予見・予感・予算」などの如く「前もって、事前」という意味を持っている。

「次にすべきこと」を予知・予測・予想することで、「あらかじめ」先手対応・事前対応などの「改善的・手抜き」ができる。

日常業務における

# イチイチ・そのつど

……という煩わしい問題には

# あらかじめ

予知・予測・予想・予見

前もって、

**事前 対応 先手 対応**

**イチイチ** 調べていた

**そのつど** 問い合わせをしていた

——などは、「改善のチャンス」。それらは「同じこと」の「繰り返し・反復・重複」を意味している

日常業務の **8割** は **2割** の

**定型的要素** の **反復・繰り返し** で成り立っている。

ゆえに、それら

**2割** の **定型的要素** を、**あらかじめ**

**定型化・パターン化** しておけば、**8割** の

**イチイチ・そのつどのムダ** を省ける。

# ズバリ 解答

カイゼン

「イチイチ・そのつど」  
—— という問題への対処法は



「あらかじめ・先手対応」で「繰り返し」のムダを省く。

☆

我々の仕事には「イチイチ・そのつど」という言葉が頻繁に出てくる。

たとえば、

\*「イチイチ、調べていた」

\*「そのつど、計算していた」

\*「そのつど、問い合わせしていた」

——など。

これらは「改善のチャンス」である。ナゼなら、それらは同じようなことの「繰り返し・重複・反復」だから。

そのような

「繰り返しのムダ」

「重複・反復のムダ」

を「ヤメる・減らす」のが改善。では、「イチイチ・そのつど」には

どう対処すべきか。そこで威力を発揮するのが「あらかじめ」という「改善の定石」である。

どうせ、やらなければならぬこ

とならば、「あらかじめ・前もって」で「事前対応・先手対応」ができる。ナニゴトも「後手」に回ると、ゴテゴテする。だが、「先手対応」すれば、やり易くなる。

「同じ計算」をイチイチ、そのつど、繰り返ししているのなら、あらかじめ、「早見表」を作成しておけばいい。

日常業務の「8割」は「2割」の「定型的要素」の「繰り返し」である。ゆえに、それらを前もって「定型化・パターン化」しておけば、8割のムダを省ける。

☆

「あらかじめ」の漢字は「予め」。「予」という漢字は「予知・予測・予想・予備・予見・予感・予算」などの如く「前もって、事前」という意味を持っている。

「次にすべきこと」を予知・予測・予想することで、「あらかじめ」先手対応・事前対応などの「改善的・手抜き」ができる。

# ズバリ解答

カイゼン

手間をかけず、カネをかけず  
「手っとり早く改善するコツ」は？



- ①「分割↓細分化」
- ②「できること」から着手
- ③「できないこと」は後回し

「手っとり早い改善実施」が苦手です。いつまでも「マズイ仕事のやり方」に固執している人がいる。

- ①「全部・全体」を変えようとする
- ②最初から「完全・完璧」を求める
- ③「できない理由」ばかり考える

——の「3項目」である。  
たしかに、このようなやり方では、いつまでも改善ができないので、いつまでも「旧来のやり方」を続けざるをえないだろう。

☆

「仕事のやり方」の「全部・全体」を一挙に変えるには「大きく変える」が必要ゆえ「大変」だ。

改善実施が得意な人は、そのような「大変」大きく変える」はしない。「仕事のやり方」を小さく分割化↓

細分化して、その「部分」から攻める。「部分的・変更」なら「小変」小さく変える」で対応できる。

それら「小変」の「繰り返し+積み重ね」で、いつの間にか「仕事のやり方」を大きく変える「大変」を成し遂げている。

「改善のヘタな人」が、最初から、「全部・全体」を一挙に変えようとして、いつまでも「足踏み」のままとは、大違いである。

☆

モノゴトを「分割↓細分化」すれば、  
①「できること」  
②「できないこと」

——に「分ける」ことができる。

そして、とりあえず「できること」からの着手が、「手っとり早い改善」実施のコツ」である。

「できないこと」は「後回し」でいい。そして、「状況や条件の変化」、「改善力向上」などで、できるようになってから、実施すればいい。

手間をかけずカネをかけず

知恵を出す改善の手っとり早い

## 実施のコツ

手っとり早い改善実施ノウハウは、

### 改善の方程式+定石+公式

に体系化されているが、その核心は次の3点

#### 1) 分割化・部分化・細分化

- ①全体を全部、変えるは、**大変** (大きく変える)
- ②部分を少し変えるのなら、**小変** (小さく変える)
- ③問題を**分割**・細分化して、**部分**から攻める

#### 2) とりあえずできることから

- ①分割化→**分別化**(「デキルこと」と「できないこと」)
- ②部分化→分ければ、わかる
- ③細分化→分ければ、できる

#### 3) できないことは後回し

- ①**着手の優先順位**＝まず、できることから
- ②「できること」から着手→**改善能力の開発**
- ③**状況条件は変化**→できるようになったら**実施**

# ズバリ解答

カイゼン

「改善的思考&発想」とは  
どのようなものか？



- ①「<u>つむぎ</u>より「<u>くふう</u>」
- ②「修繕」から「改善」へ
- ③手っとり早い実施・実行

「改善的な思考・発想」に関してはイロイロな角度から、様々な説明ができる。しかし、「最も重要」なのは、次の3点だろう。

①「<u>つむぎ</u>より「<u>くふう</u>」

改善しない人は自己満足、または、自虐的な「苦勞」を、いつまでも続けている。

それに対して、改善的思考の人間は常に、「より良いやり方」を工夫して、「仕事のラクちゃん化」や「仕事のやりやす化」を楽しんでいる。

②「修繕」から「改善」へ

「問題に対する対処法」は、最初のうちは修繕（現象対策）に過ぎないか

もしれない。

しかし、「改善発想のできる人」は「なぜ、そうなるのか」とその原因を考え、原因対策（改善）に取り組むようになる。

修繕（現象対策）は「同レベル」の「繰り返し」に過ぎない。ところが、改善（原因対策）は「より良いやり方の工夫」を伴うので進歩につながる。

③手っとり早い実施

「大変なこと」は、じっくり慎重に長期的に、計画的に、取り組むべきだろう。

しかし、「自分の仕事のやり方」を「ちよつと変える」という「小変」＝「改善」は、手っとり早くやるほうがいい。

とりあえず、できることから、できる範囲で、手っとり早く実施するのが「改善的な発想」である。

改善的

## 思考&発想とは？

### ①くろうよりくふう

自己満足的&自虐的な**苦勞**よりも  
やり方の**工夫**で、仕事の**ラクちゃん化**

### ②修繕から改善へ

**修繕**＝現象対策＝同レベルの繰り返し  
**改善**＝原因対策＝やり方の工夫→進歩

### ③手っとり早い実施

とりあえず、できることから、**即座に実行**  
とりあえず、できる範囲で、**手っとり早く実施**

**大変** はじっくり計画的に＝**着眼大局**

**小変** は手っとり早く＝**着手小局**

とりあえず、**やめてみる**・**やってみる**